

YANBAe

や

ん

ば

え



編集：公立置賜長井病院広報委員会

発行：公立置賜長井病院

令和 3 年 11 月 1 日

退職致しました

副院長 恩村 芳樹

9 月 30 日をもって公立置賜長井病院を退職致しました。長井の病院に最初に来たのは医者になって 2 年目、38 年前の昭和 58 年でした。長井市立総合病院の時代で、木、金、土の 3 日間泊まり込みのアルバイト(月に 1 回程度)でした。私は泌尿器科医なのですが、外来診療、入院診療、夜間透析、当直をやりました。病院には東北大卒の先生が多くいて活気があり、医局はオープンな雰囲気です。休憩室(豊部屋)では皆で麻雀をして楽しんだりしたものです。また、多くの先生が病院近くの官舎に住んでいたのも、夜は近くの居酒屋が溜まり場になっていました。昭和 59 年、61 年と半年ほど長井病院で働き、その後山大で学位の仕事をした後、昭和 63 年からは長井病院に赴任しました。病院ではサッカーチームをつくって活動したり、キーボードが出来たのでバンドのまねごともしました。今から考えると皆で遊ぶ余裕のある時代だったのだと思います。とにかく居心地の良い空間がありました。平成 12 年には公立置賜病院組合が誕生し長井市立総合病院はその任を終えました。その頃は病院で麻雀など考えられない時代になっていました。置賜病院に移行してからは、自分の力不足もあり、上手いかなと思うことばかりでしたが、何とか皆様の力を借りてここまで働いて来られたのは幸せなことだと感じております。ありがとうございました。



10 月 1 日から、長井病院の泌尿器科外来は
毎週火曜日（午前）となっています。

オンライン面会を始めました

当院では、新型コロナウイルス感染症予防のため、病棟での入院患者様とご家族の面会を原則として禁止させていただいております。しかし、このコロナ禍が長引く中で、少しでも患者様の様子を見たいと望まれるご家族の声が多くあったことから、9 月からオンラインによる面会を開始しました。



面会を希望されるご家族は、ご自宅のパソコンやスマートフォンと病棟のパソコンを「ZOOM」アプリを使って繋ぎ、患者様と10分程度面会していただけます。ご自宅での環境が整わない場合や、パソコン等の操作が不安だという場合は、病院に来ていただき、面会ブースで当院のパソコンを使用して面会していただけます。

実際に面会されたご家族からは、「顔を見て話しをすることが出来て安心した」などと喜んでいただいております。

人工透析室の職場紹介

まずは、人工透析は何をしたらいいのだろうか？との皆様のご質問にお答えしたいと思います。腎臓は、血液中の不要物を尿として身体の外に排出しています。人工透析は腎臓のはたらきが極度に低下した際、機械の力によって腎臓のはたらきを代行する治療です。血管に針を刺して体外に出した血液を機械に通してろ過し、不要物を除去した後に再度血管内に戻します。慢性の病気で腎臓のはたらきが低下している場合



場合は、おおむね1回3～4時間、週に3回の透析治療を継続することになります。長井病院透析室では、透析導入となった後の透析継続を必要とする57名の患者さんが治療を受けられており、月曜から土曜の日中及び月・水・金の夜間治療も行っております。室内は、1フロアのとても広々としたスペースに23床のベッドが配置されております。治療に携わる医師は、基幹病院の腎臓内科医師2名と泌尿器科医師1名、開業医の医師2名、10月からは山形大学附属病院医師1名の体制でご協力頂いております。スタッフは、看護師9名、臨床工学技士1名、補助者1名の計12名で病院長のバックアップを頂きながら、透析治療に従事しております。

透析を受けられている患者さんは、運動及び食事面での制限がある中でコントロールし、様々な仕事を行いながら生活を送られています。私たちは、患者さんの考えを尊重しながら共に考え、患者さんにとってのベストな方法を提案し、サポートしながら取り組んでいます。また、患者さんの医療行為に関する意思決定についての確認や、動脈硬化からくる足のトラブルを回避する為、足の観察や処置、血流測定を行い、セルフケアにも力を入れています。令和4年には公立置賜長井病院の新設が控えており、新しい環境の中患者さんに安全な透析治療を提供できるよう、設備調整の準備を進めております。

私たちは、病院理念「安心と信頼の医療・地域ともに歩む病院」を目指し、常に進化する透析治療に対応すべく、日々学習し他部門との協力を得ながら、スタッフ一同取り組んで参りたいと思います。



長井病院健康レター

第四回 歩くと足が痛くなることはありますか？

副院長（総合診療科）

三須 一彦

歩くと足が痛くなる、だるさや痺れが出て歩けなくなる、そして少し休むとまた歩けるようになることはありませんか？これを間歇性跛行（かんけつせいはこう）といいます。

間歇性跛行の原因は1. 腰部脊柱管狭窄症 2. 閉塞性動脈硬化症 3. バージャー病があります。バージャー病は圧倒的に喫煙者の男性(20-40歳)に多く、手足の動脈が炎症をおこして閉塞する病気です。閉塞性血栓性血管炎ともいわれます。この病気は症状、喫煙歴、性差などから推定がつきますが、腰部脊柱管狭窄症と閉塞性動脈硬化症は区別が付きにくいので次に解説していきます。



腰部脊柱管狭窄症とは？

腰部脊柱管狭窄症は、年齢とともに起こる骨の変形や靭帯の肥厚などにより脊柱管の中を通る馬尾神経が圧迫されている状態の疾患です。そのため圧迫された馬尾神経により腰痛や足の痛み、痺れを起こします。歩くことで自然に脊柱管が圧迫され痛みや痺れで歩けなくなります。休むと改善しますが立って休んでもあまり良くなりません。ベンチに腰を掛けたり、しゃがんだりして前かがみの姿勢で楽になることが特徴です。また歩くのは辛いけど腰が前傾になる自転車は楽に乗れるなども特徴的です。

閉塞性動脈硬化症とは？

閉塞性動脈硬化症は、足の血管の動脈硬化によって血管が細くなったり詰まったりして血液の流れが悪くなる疾患です。足の血管に起これば歩行時の足の痛み、痺れ、冷感などの症状を起こします。休むと治りますが姿勢は関係ありません。

どうやって見分けるの？

間歇性跛行は症状の起こり具合、改善の状況などある程度は問診で鑑別が可能です。腰部脊柱管狭窄症が疑われる場合には腰椎のレントゲンやMRIを、閉塞性動脈硬化症が疑われる場合には血圧脈波検査、超音波検査、血管撮影などが有効です。

もっと簡単にわからないの？

簡単なスクリーニング検査は血圧脈波検査です。四肢の血圧を測定するだけで脈波伝播速度(CAVI)、上肢と足首との血圧比(ABI)がわかり閉塞性動脈硬化症の診断が可能です。間歇性跛行を感じる方は是非当院で相談ください。

《病院改築工事の進捗状況》

【新病院はどんな病院になるの？】

新病院は、鉄筋コンクリート造地上2階建てで、患者様が安心して受診いただける病院を目指し、利便性と安全性を重視しています。

1階は総合受付、医事業務、相談室、外来診察・処置室、各種検査室、人工透析室を配置し、加えて、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、地域在宅医療連携推進室を併設することで、「住み慣れた自宅や施設」でだれもが医療サービスや介護サービスを安心して受けられるように、地域医療連携を強化していきます。

2階は、看護の目が届き、患者様を見守りやすい病棟とリハビリテーション室を配置します。

先行して稼働している厨房・エネルギー棟と新病院棟が繋がり、効率よく管理運営が可能になります。



【完成イメージ】

【工事の進み具合はどうなっているの？】

令和元年10月に精神科病棟を一般病棟に改修し、以前と同じ50床で稼働しています。加えて、令和2年11月に厨房・エネルギー棟が完成し、質の高い患者食を提供しています。

現在は、6階建ての病棟を解体した場所に、2階建ての新病院棟を建設中です。令和3年10月中にコンクリート打設工事が完了し、外装および内装工事に着工の予定です。天候にも恵まれ、工事はスケジュールどおり順調に進んでいます。



【新病院はいつ開院するの？】

新病院は、令和4年5月の開院を予定しています。

外来は、内科、整形外科、耳鼻咽喉科、外科、眼科、精神科、脳神経外科、婦人科、泌尿器科、リハビリテーション科の10診療科、一般病床は50床、人工透析は23床と、現在と同じ体制でスタートします。